2005 年 7 月 22 日（金）　　第 30 回研究会

発表者： 新江利彦 氏
（東京外国語大学 21 世紀 COE プログラム史資料ハブ地域文化研究拠点 PD 研究員）
発表題目： 「フエ阮氏・チャム阮氏蜜月時期のチャム文学について
―アリヤ・グランアナク、アリヤ・トゥアンフォーを中心に―」

本研究会においては、チャム族の在地固有文書に残る文学作品のうち、ベトナム帝国（フエ阮氏）とチャム王家（チャム阮氏）の蜜月期（1796 年ころ～1828 年ころ）の作品と思われる哲学詩「アリヤ・グランアナク」と戦記詩「アリヤ・トゥアンフォー」を取り上げ、「対越協力：ベト族との共存共栄と和平の追求」という思想について報告された。

まず第１に、少数民族文学の中の多数民族との平和共存思想について考える前提として、チャム族とその地域関係・民族分布・文学・文字などに関する説明がなされた。そして、歴史的背景として、フエ阮氏とチャム阮氏の関係や、その蜜月時期に関する説明がなされた。

第２に、具体的な作品１として「アリヤ・グランアナク」を取り上げ、その書誌情報・アリア詩体の韻律・本文の内容・時代背景などに関する説明がなされた。そして、経済的繁栄の勧めが特に露骨な最後部分は「グランアナク氏」の直筆ではないという意見もあるが、この部分こそフエ阮氏・チャム阮氏の蜜月期のチャム文学の特徴を表しているのではないかという見解が示された。

第３に、具体的な作品２として「アリヤ・トゥアンフォー」を取り上げ、やはりその書誌情報・本文の内容などに関する説明がなされた。そして、ベトナム側の史資料である大南寔録正編第一紀に見られるトゥアンフォー（鑽扶）の乱とチャム側の史資料である「アリヤ・トゥアンフォー」との相違点及び類似点が示された。また、「アリヤ・トゥアンフォー」の内容には、1835 年に起きた順城鎮のチャム族浪人の反乱を彷彿させる場面があることから、暗喩的な意図の可能性も指摘された。

第４に、FULRO（ベトナム・カンボジア被抑圧諸民族闘争統一戦線。ベトナム戦争中に反越反共闘争を行ったチャム族ゲリラ。）の結成から崩壊までに関わった人々の肖像を証言に基づいて描いた『フルロとは何か』を取り上げ、チャム文学に見られる対越協力として、意図的な協力と結果としての協力という２つの視点が示された。

最後に、少数民族文学における「対越協力思想」の表現は、一見極めて現代的な問題であるが、チャム族の文学においては、フエ阮氏・チャム阮氏の蜜月期において、すでによく見られる思想であったこと、また逆に、フエ阮氏あるいはベト族を徹底的に憎悪する文学は存在しないか残っていないことが説明された。

以上の報告後、チャム族及びチャム文学などに関する多くの質疑・応答が行われ、活発な議論が交わされた。